

第 102 回歴史探訪の会 「天理・卑弥呼の里の史跡巡り」

日 時：令和 7 年 11 月 19 日(水曜)
場 所：奈良県・天理市
世話人：田原誠也

11 月の歴史探訪の会は、奈良県・天理市で山辺の道周辺の史跡を巡りました。卑弥呼の鏡ともいわれる三角縁神獣鏡が 33 面も出土したこと有名な黒塚古墳をはじめ、大和朝廷の創始者とされる崇神天皇陵や 織田家の菩提寺とされる専行院、淳和天皇の勅願により創建された長岳寺等々の史跡、寺社を天理市山の辺の道ボランティアガイドの会中島良昭様他 2 名の方の案内で訪ねました。参加者 29 名

コース

JR 柳本駅～柳本公園(黒塚古墳・展示館)～専行院(織田家の菩提寺)～ 伊射奈岐神社～崇神天皇陵(行燈山古墳)～山の辺の道～天理トレイルセンター(昼食)～紅葉の長岳寺～五智堂(真面堂・傘塔)～大和神社(おおやまと神社・戦艦 大和由来)～JR 長柄駅(解散)



JR 桜井線 柳本駅に集合

1. 柳本公園(黒塚古墳・展示館)

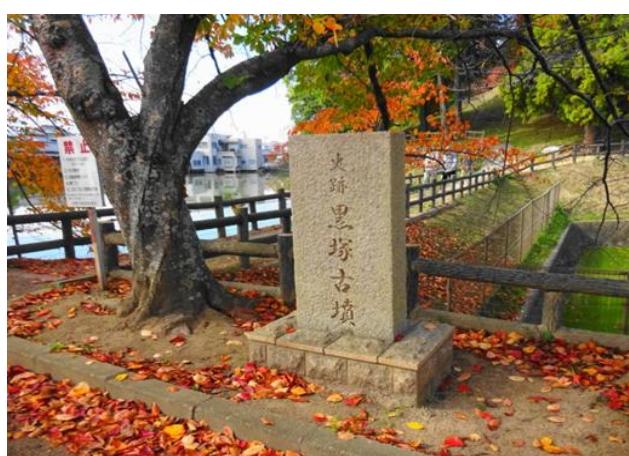
国指定史跡の黒塚古墳、資料展示館、児童公園がある。

黒塚古墳は前方後円墳で、全長約 130m、後円部径約 72m、後円部の高さ約 11m、前方部幅約 60m、前方部の高さ約 6m です。1997～98 年にかけて発掘調査が行われ、長さ約 8m の竪穴式石室が埋葬当時の状況で見つかりました。埋葬施設は竪穴式石室で、後円部に墓壙を掘り、石を積み上げ、中央部に木棺を安置する粘土の床が設けられていました。木棺は長さ約 6m、幅 1.m で、木棺の中には水銀朱、周囲にはベンガラが残っていました。

又、木棺内には画文帶神獣鏡(がもんたいしんじゅうきょう)1面と、その両脇に刀剣類が置かれ、木棺と石室壁面の間からは、33 面の三角縁神獣鏡(さんかくぶちしんじゅうきょう)と刀剣、鉄鎌、冑などの武器や武具、鉄器などが出土しています。

棺外の鏡は全て三角縁神獣鏡で、この三角縁神獣鏡は卑弥呼が魏の国から貰った鏡と言われ

ています。卑弥呼の墓とも云われる“箸墓”に近い場所からたくさんの三角縁神獸鏡が出土したことから、邪馬台国畿内説がクローズアップされることになりました。



資料展示館には、竪穴式石室、三角縁神獸鏡などの副葬品の複製品が展示されています。



2. 専行院(織田家の菩提寺)

柳本は、慶長 5 年(1600 年)、織田信長の弟で茶人としても知られた織田有楽斎(おだゆうらくさい)の知行地となり、さらに元和元(1615)年、有楽斎の五男尚長(ひさなが)が入部して、柳本織田藩が始まります。

専行院は、尚長の入部により、織田氏の菩提寺となりました。現在も有楽斎・尚長をはじめ歴代藩主の墓が残っています。また織田家の位牌堂があり、信長、有楽斎をはじめ柳本藩主、生母、奥方を含む柱の靈位が奉安されています。

尚、東京の“有楽町”的地名は、有楽斎が数寄屋橋御門の周辺に屋敷を拝領したことによる。



3 伊謝奈岐(いざなぎ)神社

創祀は不明で、歴史ある神社のようですが、詳しいことは判っていません。中世には天神社とされ地域の信仰の中心となりました。江戸時代には柳本藩の藩社になりました。又、境内には他に厳島、秋葉、春日、八坂、建勲、事代主、琴平、稻荷、太神宮の諸社があります。





伊謝奈岐神社から行燈山古墳へ向かう

4. 崇神天皇陵(行燈山古墳)

実際の被葬者は明らかでないが、宮内庁により「山辺道勾岡上陵(やまのべのみちのまがりのおかのうえのみさき)として第 10 代崇神天皇の陵とされている。又、地域の名前をとて行燈山古墳(あんどうやまこふん)とも呼ばれています。

古墳は前方後円墳で、全長約 242m、後円部径約 158m、後円部の高さ約 31m、前方部の幅約 100m、前方部の高さ約 13.6m、周濠を含めた全長は約 360m、最大幅約 230m といへん大きな前方後円墳です。築造されたのは古墳時代前期後半(4世紀後半)でも早い時期とされています。

ガイドさんによると、崇神天皇陵と伝わるのが、景行天皇陵で、景行天皇陵と云われるのが崇神天皇陵と云う説があるそうです。



崇神天皇陵から山辺の道を歩き、天理トレイルセンターへと向かいます。



天理トレイルセンターにて昼食・休憩



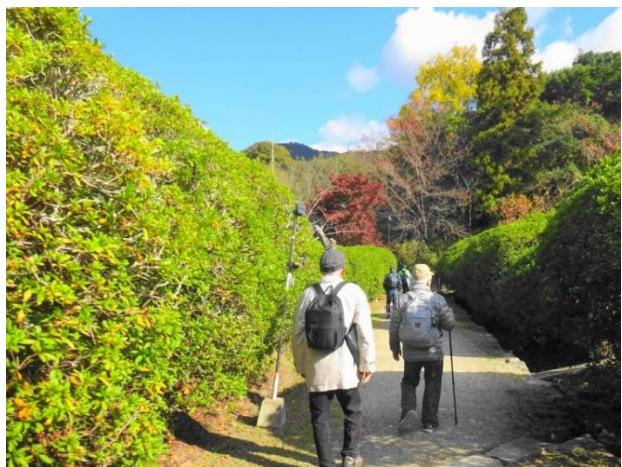
天理トレイルセンターにて(左端緑のジャケットの方はガイドさん)

5. 長岳寺

高野山真言宗の寺院。山号は釜の口山(かまのくちさん)。本尊は阿弥陀三尊。日本最古の道といわれる山の辺の道のほぼ中間点にあり、釜口大師の名で親しまれています。

寺は淳和天皇の勅願によって天長元年(824年)6月に空海が釜口氏の廟所に精舎を建て真言道場として開いたのが始まりとされています。

寺では地獄絵を見る事が出来ます。全部で9幅の軸から構成されており、全体で一枚の絵となっています。人が死んだ後の世界を描いたもので、祭礼、法要のあとに多くの参詣人を対象に、因果応報を解くことによって勸善懲惡の教えを説き、またあわせて先祖供養、中陰、遠夜、年忌の意義を説いたと考えられます。又、この時期紅葉がきれいでました。





6. 五智堂(眞面堂)

長岳寺の西方約1km の飛び地境内にあり、その形から傘堂あるいは眞面堂とも呼ばれます。真ん中に太い心柱がありこれによって建物のほとんどの重量が支えられています。心柱上部に四佛の梵字額があり全体で五智如来をあらわしています



7. 大和(おおやまと)神社

ご祭神は、大国魂大神(おおくにたまのおおかみ)、八千戈大神(やちほこのおおかみ)、御年大神(みとしのおおかみ)。創建は孝昭天皇即位の年、はじめて宮中内に大国魂大神と天照大神(あまたらすおみかみ)が同殿共床で奉斎しましたが、崇神天皇の即位 6 年 9 月に天皇は神威をおそれ、天照大神を皇女豊鋤入姫に勅し倭の笠縫邑に移し、大国魂大神を皇女淳名城入姫に勅し、倭国市磯邑に移されました。これが大和神社の創祀と伝わります。

大和国が名前の由来となっている旧日本海軍の戦艦「大和」には、この神社の祭神の分霊が艦内神社として祀られていました。太平洋戦争末期、「大和」は沖縄沖で沈没したが、その時に戦死した第二艦隊司令長官伊藤整一中将以下 2,736 名が末社・祖靈社に合祀されています。昭和 44 年(1969 年)、境内に「戦艦大和記念塔」が建立され、戦艦「大和」と共に出撃した巡洋艦や駆逐艦の戦没者も合祀されています。



大和神社より JR 長柄駅まで歩き、駅にて解散しました。皆さん、お疲れ様でした。

写真の多くは津垣さんが撮影されたものを使用しました。津垣さんありがとうございました。